

動の爲八十名を市當局に送り闘争中である。

○小倉支部金屬部 森 原 春 一 報告

小倉は北九州で最も運動のしにくい所と聞いてゐるが小倉工廠分會は確立してゐる淺野製鋼に二三のメンバーを獲得してゐる。

○八幡支部 林 田 一 報告

八幡支部は大体本部の脚を努めて来たのであるが、金屬部としては製鐵所を訪問した之は面會出来ず非常に残念であつた、國家権力の支配する製鐵所でも一個人とは云へ組合代表の面會を一蹴するとは不當である、安田製釘、旭硝子港町の小工場に對する組合闘争は従業員の熱意が不足し運動が出来なかつた、出来なかつたと云ふ事には會社、資本家の魔の手があつた事を信じて居る、交通部で

は銀バスに手をつけ四五回ヒラを撒いた、會社側では吾々の誠意は認めてゐる、吾々の運動は議案書にある通りを如何なる暴壓ありと闘争するものである、資本家と労働者とは幾百萬年たつとも何處迄も對抗し最後迄闘はねばならぬ眞理がある。思い通り行かぬかも知れぬが如何なる暴迫、彈壓ありとも此の職を深め最後迄闘争邁進する。

○小倉支部交通部 (小倉運送仲仕) 永 井 某説明

大きな力は組合の力である、仲仕百人は皆組合員である、吾々は仲仕小頭なるものより凡ゆる手段によつて中間搾取をされ、パンを叩き落されても甘じて汲々と働いて来たのであるがこの仲仕小頭に向つて本部の應援の下に抗争し迷に叩潰した、更に會社側に對しても目的を貫徹した、これは團結した大きな組合の力と正義に因る闘争だつたからだ